



@幸せな贈り物

遠くに行くなら ともに 行きなさい

45センチメートル、そのパラダイム paradigm の転換

フランスの数学者・物理学者・哲学者であるパスカル Blaise Pascal が言うのに「海の水ほどの理性より、一滴の愛がより多い」と言いました。そして、アフリカのことわざに「はやく行こうとするなら一人で行け。しかし、遠くへ行こうとするならともに行け」ということばがあります。私たちの社会は、いつから愛と激励よりは非難と批判、争いにさらに習熟して、「私たち」よりは「私」にさらに執着して生きていくようです。最近、起きる地域の利益主義にともなう地域間の葛藤、保守と進歩との葛藤、教育現場の民主教育と公教育の葛藤、韓国、北朝鮮のきつ抗した葛藤と危機、両親と子どもの中で殺すという殺伐な葛藤を見ればそうです。いつから、私たちの生活が、このように闘争的に変わったのでしょうか。この前、金大中氏の新聞のコラムを見ながら、私たちがなぜ闘争的に生きていかなければならないかを少しの間だけでも考えてみるようになりました。

この小さい国がアジア競技大会、オリンピック、ワールドカップ、世界陸上、F1自動車競走など、世界的なスポーツイベントで参加していないものはない。アジア競技大会もインチョンで3回開催されて、ピョンチャン冬季オリンピックの誘致まで成功すれ

ば、人口・国土対比の世界記録になるだろう。それも25年余りの期間にだ。人口4,500万規模の国で国際航空会社が二つもある国もめずらしくて、自動車会社が5個もある国もない。空港もインチョン国際空港を含む、赤字である地方空港まで、全部で15個にもなる。新聞も100以上もあり、放送もこのように多い国は世界にない。地方自治体ごとにするので、世界的なことをつかんで引き伸ばそうとすればこういう現象が起きざるをえない。韓国は金メダルは認められるが、銀メダル、銅メダルは認めてもらえない。このように息ぜわしく走って来てみたら、私たちはいろいろな面で、とても闘争的に変わってしまった。それだけでなく、本来、私たちの土台が南北で分断されて、理念的に対立しているところに、万人と万人が競争して生き残らなければならない構造は、私たちを「喧嘩早い人」にしてしまった。少し譲歩すれば負けることで、負ければ退出という強迫観念に捕われて生きている。政治も、経済も、文化も、教育も、娯楽・演芸もすべて「私がだれかを打破って立上らなければ、私が死ぬようになる」ゲームに変質した。もう私たちはしばらく競走を止めて、私たちが立っていても倒れないことを確認する必要がある。あまりに闘争的に生きてきたことを認識する必要がある。私たちは全範囲に参加して、

すべてに1番になる考えを捨てて、規模に合せて私たちが一番上手にできることに集中する知恵を体得する必要がある。私たちみんなが正直になる必要がある。

私たちの生活が闘争的になったのは「ともに」を考えない批判のための批判、代案がない批判の悪循環のためではないかと思ったりします。アメリカ歴史上、最も尊敬される大統領、最も大変な時代を勝利の時代にしたリンカーンの力は、激励の一文だったと言われていました。非難と脅迫に苦しめられた彼が暗殺されたとき、ポケットから発見された新聞記事一枚は「リンカーンはすべての時代の最も偉大な政治家の中のひとりだった」という激励の文だったと言うことです。アメリカの作家であるウィリアム・アーサー・ワード William Arthur Word が言うのに「へつらってみなさい。そうすれば、あなたを信じなくなる。非難してみなさい。そうすれば、あなたが好きでなくなる。無視してみなさい。そうすれば、あなたを許さなくなるだろう。励ましてみなさい。そうすれば、あなたを忘れなくなる」と話しながら、社会の中で私たちが何を選択しなければならないかを知らせました。頭では分かりますが、心（胸）に受け入れるのが大変で、その心（胸）と頭の間45センチメートルが最も遠いと言いました。もう、その45センチメートルのパラダイムを変えなければならぬ時です。神様さえも、ひとりをさばこうとされるなら、その人の死後まで待っておられるのですが、私たちは、そのような余裕をどのように見つけることができるのでしょうか。

私たちには和解のいけにえが必要です

本当に人を愛して未来と次世代を思う人は、自分の利益のためにむやみに人を悪く言ったり、争ったりしません。私たちは一つの船に乗っています。船が破船すればいっしょに死ぬのです。そして、その苦痛は、私のことでも、あなたのことでもなく、私たちみんなのことで、次世代の持分です。ところで、なぜこういう争いを継続するのでしょうか。何か埋めることができない人間の隠れた動機と貪欲が、人間を争うようにさせるのです。この貪欲はどこからきたのでしょうか。神様のみことばである聖書には人間が創造される前からあった暗やみとむなしさと混とんの実体、サタン（悪魔）という存在に対して

明らかにしています。このサタンは、悪賢い偽りの言葉で人間をだまして、幸せの根源である神様を離れるようにさせました。そして、人間の頭と心（胸）の中に肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢でぎっしり埋まるようにさせました。（ヨハネの手紙第一 2:16）それ以後、人間は自らの欲望を満たすために絶え間ない闘争の生活の中で、結局、不幸が繰り返すしかない運命に陥るようになりました。弱肉強食の世界の中に捨てられた人間は、生存の問題を解決するために貪欲がもたらした力の原理に支配される生活を生きていくようになりました。ですから、争いと葛藤による呪いと災いの悪循環は繰り返すしかありません。これがまさに人間に向かったサタンの願いです。

それで、神様は人間自ら解決できないこの問題を解決して下さるためにキリストを送ってくださいました。キリストはこの世に来られて十字架で死んで復活されることによって、神様を離れたすべての人間が神様に会える道を開いてくださいました。（ヨハネの福音書 14:6）キリストは、十字架で私たちの罪の代わりに死なれることによって、私たちのすべての罪を解決して、呪いと災いから解放してくださいました。（マルコの福音書 10:45、ローマ人への手紙 8:2）キリストは死から復活され、今でも人間を困らせて地獄に引っ張っていくサタン（悪魔）のすべての権威を完全に打ちこわされました。（ヨハネの手紙第一 3:8）キリストは、人間が解決できない貪欲とすべての呪いの鎖を切ってしまう和解のいけにえになってくださいました。その「キリスト」Christ が「イエス」Jesus です。今、キリストであるイエス様を信じて心に受け入れることによって、家庭と社会を一つにするようにする祝福の根源的な生活を開始できます。人を変えなくては社会を変えることができません。私を変えなくては共同体を変えることができません。そして、あなたは本当に大切な人です。

「私たちが神を愛したのではなく、
神が私たちを愛し、私たちの罪のために、
なだめの供え物としての御子を遣わされました。
ここに愛があるのです。」

（ヨハネの手紙第一 4:10）

幸せと不幸 原因と答えはこのようなです

幸せでなければならない人が幸せを見つけることができなくて苦しんでいる理由は何でしょうか。神様を離れているからです。根が抜けた木が生きられないように、水を離れた魚が生きることができないように、神様を離れた人間は幸せになれないと聖書はおっしゃっています。なぜ神様を離れるようになったのでしょうか。神様の約束に不順従して、神様を知らなくなって、その結果、罪と苦しみの中に陥るようになりました。精神的な苦痛、生きがいとバランスがない生活、肉体の病気に苦しめられるようになったのですが、分かってみれば、すべて神様を離れた霊的な問題から始まったのです。いつからこの不幸が始まったのか聖書は知らせています。人類が始まったアダムとエバの時代から始まりました。彼らは、サタンの誘惑に負けて神様との約束である善悪の知識の木の実を取って食べて、神様を離れるようになりました。このときから人間の苦しみと問題は始まったのです。この不幸はいつまで続くのでしょうか。この結果としてやってきた人間の不幸は今でも続いていて、ますます増加しています。むしろ、解決しようとするほど、この世には人間が解決できない不幸のニュースがもっと増えていきます。それでは、なぜこういう不幸はなくなるのでしょうか。不幸をもたらす者がいるためです。聖書は、その名前に対してたしかに明らかにしています。サタンは、敵対する者として、神様の働きを妨害する存在で、悪魔は神様と人間の間を分離させて、神様を知らなくさせます。数多くの悪霊（惑わす霊、汚れた霊）を働かせながら人間を倒して、あらゆる汚いことをして、不幸の中で陥るようにしています。彼らは天から神様に敵対して墮落した天使で、空中に追い出され、地球に出現して人間を滅ぼすのです。結局、この存在は、さばきの日に地獄に行くようになっています。このような悪の勢力があるから、人間の不幸は自分では解決できないのです。神様を知らなければどうなりますか。自分も知らない間に、生涯、悪魔の子どもになって、理性では理解できず、原因も分からない苦しみと霊的問題に苦しめられるようになります。夜通し楽しんでいのに、心が何となく寂しくて安らぎがない理由は何でしょうか。神様を離れているためです。人々が幸せを求めて、酒、麻薬、占い、お祓いを訪ねてさまよいます。しかし、世の中で得る安らぎは少しの間だけです。快樂は瞬間的な満足であって、まことの幸せではありません。その後には、必ず虚無とのろい、さらに大きな不幸が付いてくるようになっています。結局、この世を離れる日、地獄に行くようになります。この問題をどのように解決するのでしょうか。ここから永遠に解放される道があります。罪とサタンに捕われた人間は、いくら努力しても抜け出すことができません。それで、神様が救いの道を開かれたのです。まさに罪とサタンを打ち砕かれた神様の御子イエス・キリストを信じて受け入れるとき、神様の子どもになる権威が与えられます。だれでも、今、この時間にイエス・キリストを受け入れれば、神様の子どもになって、神様が永遠にともにおられるようになるのです。

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。

私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きてきました。

しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してください。キリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。

イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

過去の未来であり 未来の過去である 今日



イラスト：シン・ジョンウン

青少年期には残るものが時間の他にないので、どのように時間を送るのか分からない勉強よりは、遊ぼうという雰囲気巻きこまれて生きていく。ちょっと大人になって、勉強すべきだという考えになると、時間が足りないほど必要な勉強の量が多いことを知ることになって、年を取れば時間があまりになくて、成就することがないことを知ることになる。それで、過去の大人たちも、今日の時間を生きる知恵を語っており、高麗時代に子どもたちの学習のために中国古典から先賢の金言と名句を編集して作った明心宝鑑という本があるが、こういう事実を案内している。

少年易老学難成（少年老い易く学成り難し）

若者もすぐに年老いてしまうが、学問はなかなか成功しない。

一寸光陰不可軽（一寸の光陰軽んずべからず）

わずかな時間も軽視してはいけない。

未覚池塘春草夢

（未だ覚めず池塘春草（ちとうしゅんそう）の夢）

池の堤にもえる春の草が夢を見ているうちに

階前梧葉已秋聲

（階前の梧葉（ごよう）已（すで）に秋声）

庭先の青桐の葉に、いつのまにか秋風がしのび寄っている

今日は明確に存在する実存の時間だ。色があって立体感を感じながら声が聞こえるようになる時間だ。しかし、今日は昨日があったので発生した時間だ。いのちの危機の中で、どうしても生きることを望んで希望して待った患者の明日がまさに今日だ。それなら、今日、何をすることが最も価値あることなのか考えてみなければならない。時間はだれが測らなくても、時間を止めようとしたり、閉じ込めておこうとしても、時間は過ぎ去って明日がやってくる。楽しい今日でも、苦しい今日でも、明日になれば今

日は過去になって、思い出の時間になって、未来の昨日となる。今日は、創造者が人生にくださった最高の贈り物だ。過去の問題を確かめあって、未来の祝福を計ることもできる機会としての今日であるためだ。私たちは時計を持っているが、時間は神様のものだ。神様のものなので、神様の時間を買えるならば、その人は最高の成功者となる。

若さを満喫している二人がいた。彼らは二人に与えられた時間を格好良く生きようと言いながら、酒場から出て肩を組んで道を歩いていた。その時、ちょうど教会の前を過ぎるようになったが、ひとりの友人が「私たちも、教会に一度入ってみよう!」と言った。すると、もうひとりの友人は「自分の人生をめぐらさずさせる神は嫌いだ。行くなら君一人で行け」と話しながら他の酒場に行った。教会に入ったひとりの友人は、その場で福音を聞いた。彼は美しい若さを放蕩で生きるのではなく、神様のかたちとして造られた人生を、神様の子どもとして生きながら、他の人に福音の光を照らして生きなければならないことを悟るようになった。昨日の生き方とは違った今日の決断がこの青年を支配して、彼の未来は当然、祝福としてきた。今日を変えたこの青年とは別に、酒場へ向かった未来をなくした青年は、時間が過ぎて、当然、刑務所で生活を送るようになった。ある日、新聞をつかんでみたその囚人はびっくりしたが、過去に教会の前で別れた酒友達クリーブランドがアメリカの22代大統領に就任するという記事が載っていたのだった。過去に縛られたまま今日を生きる者は、未来も苦痛だが、昨日の苦痛を今日の土台にして、明日の時間に希望をおく人は、その価値を成し遂げるようになる。信仰の時間として準備された今日こそ、まことに幸せな者の時間だ。

チョン・ヒョングク（福音コラムニスト）

*相談したい方はこちらまでどうぞ